

審査の結果の要旨

論文提出者 古川 公毅

論文タイトル: 首都高速道路のネットワーク形成の歴史と計画思想に関する研究

本研究は、東京の首都高速道路の主として路線計画の計画思想をその創成期から改良期まで系統的に、かつ実証的に検証したものである。また、その計画思想のオリジンがアメリカ、ヨーロッパ、戦前満州の道路計画思想とどのような関係を持つのか、近年のアジア諸国の都市内高速道路計画にどのような影響を及ぼしたのかについて考察している。

序論をまとめた1章のあと、第2章では、首都高速道路のネットワーク形成の歴史について史料調査を行い、(1)首都高速道路の初期の構想、(2)当初計画のネットワーク、(3)延伸計画の形成 に関して、首都高速道路計画形成の経緯と設計内容の変遷が取りまとめられている。当初計画と比べ、ネットワークが格段に充実したため、「基幹的交通施設」へと首都高速道路の性格が変わったが、あくまで首都高速道路は交差点を連続立体交差化する発想から出発したもので、都市間高速道路とは自ずから性格が異なるものであることが明らかにされている。

次に第3章では、「首都高速道路の計画思想はどこから来たか」が取りまとめられている。具体的には、S.Johanneson の「街路の将来」(Streets of Tomorrow)に代表される欧米の都市内連係高速道路、中国東北地方で日本の専門家が進めた道路計画と、山田正男らの「東京高速度道路網計画案」との関係性が分析されている。従来の研究では、欧米に都市高速道路のネットワーク形成の計画思想があったのか、については、必ずしも明確に整理されていなかったが、本研究では、欧米においても早くから環状道路と都市高速道路のネットワーク形成の考え方があったが十分には実現しなかったことを明らかにし、この点を踏まえて首都高速道路のネットワークの特徴を考察している。首都高速道路は、道路の交通処理能力を上げるため、交差点を連続立体化したことに特徴がある。欧米からの単なる技術移転ではなく、市街地内の交通処理を目的とした都市高速道路のネットワークという、欧米とは異なる独自の計画思想にまで発展させ、東京で世界最初の実現した。

第4章では、首都高速道路の計画思想がどのように他国に波及したのか分析している。具体的には、バンコク、マニラ、ジャカルタ、上海等を対象に調査を実施し、各都市の都市高速道路を、都心に至るまで連続立体交差のネットワークが形成されているか、及び導入道路がコンパクトに高度利用されているかの二つの要素によりタイプ分けしたところ、首都高速道路と似ているもの、似ていないものに分類できた。その結果、バンコクと上海においては、首都高速道路の計画思想が色濃く受け継がれているのではないかと考察した。

本研究の特徴は次の点にある。

- 1) 首都高速道路のネットワーク形成に重要な役割を果たした東京都市計画高速道路調査特別委員会の審議内容について、実証的に取りまとめている。
- 2) 延伸計画の形成の過程については従来必ずしも明確に整理されていなかったが、本研究で

- 3) 山田正男が 1938 年に提唱した首都高速道路の初期の構想に着目し、そのルーツはアメリカの立体交差による交通処理のアイデアと、満州の二つの高速道路計画の息吹であったと分析している。
- 4) 首都高速道路の計画思想がどこから来たかについて調べ、アメリカ及びドイツにおいては、都市高速道路のネットワークの考え方はあったが、十分には実現しなかった。一方、都心部に至るまでの都市高速道路のきめ細かなネットワークにまで具体化し、世界で最初に東京で実現させたことが首都高速道路の特徴であることを明らかにした。
- 5) アジアの大都市の都市高速道路への日本の海外技術交流の経緯を明らかにし、都心に至る連続立体交差のネットワークが形成されていること、及び導入道路のコンパクトな高度利用がされていることから見て、バンコクや上海には首都高速道路の計画思想が濃く受け継がれていると分析した。

本研究により得られた知見は今後の内外の道路計画をより充実したものとする上で極めて有用なものと認められ、学位論文としての価値が十分に高いものと判断する。

また、英語の試験の結果も良好であり、総合的に見て審査委員一致して合格と判定する次第である。